



くぬぎだより

第5号

平成27年3月発行
くぬぎの木
特別養護老人ホーム



結婚式を控え、写真の前撮りをした曾孫さんが、「おおばあばにこの姿を見せたい！」とウェディングドレス姿のまま会いに来てくれました。数日前から体調が思わしくなく、えらそうな表情が続いていたのですが、「今日の午後に曾孫さんがドレス姿見せに来てくれるよ！見に行こうね！」と伝えると、午後にはびっくりするくらい元気なお顔を見せてくれました。ドレス姿でいつも以上にきれいな曾孫さんを見て「誰？なに？」と何が起きているのか分からない様子でしたが、よ〜く見るといつも会いに来てくれる曾孫さんだとわかると、「近くに住んでたからね、小っちゃい頃はよく面倒見たの。おっきくなってねえ〜。きれいやね。嬉しいよ！」と涙ぐむ姿も。

結婚式の日取りが決まった1年前から、「おおばあばも出席してね」と参加できることを願っていましたが、体調面を考えると参加できそうにないかなと、みんなが残念がっていた時のサプライズに思わず施設長もスタッフもみんな大集合で見とれていました。他のご入居者も綺麗な花嫁さんを見ようと大集合！その間をバーজনロードのように歩いて玄関までお見送り。

やっぱり元気の源はご家族の幸せな姿を見る事ですね。おおばあばを想い、元気づけようという気持ちが伝わり、おおばあばもその気持ちを受け取り、元気な姿を見せてくれました。みんなが幸せを感じる瞬間に立ち会えた私たちも幸せです。ありがとう、おおばあば！



「うまいなっ!!」

お誕生日のお祝いに法事などでよく行っていた近所のお寿司屋さんへ。久しぶりの外出に少し緊張されていましたが目の前にお寿司が並ぶとニコリ。ペロッとたいらげました。



「金魚すくい」

2丁目の玄関入ってすぐには金魚が♪一緒に金魚の水槽の水替えをしました。ご入居者には金魚すくいを・・・大きくなった金魚を見て、「よう肥えとるな」と一言・・・



「誕生日おめでとう!」

息子さん、曾孫さんが誕生日のお祝いにケーキとバラの花束を持って来てくれました。ケーキは「もういらん」と言いながらも息子さんが食べさせてくれると、あ〜んとたくさん食べられました。



「明日はな・・・」

夕食のお供には我が家の回覧板が。「明日、この映画を見に行くんや」と上機嫌。お菓子作りサークルの案内や映画の案内・・・回覧板に夢中でご飯がすみません・・・



暮らしの1ページ



「久しぶりやわ」

ご家族宛に年賀状を書きました。「一年が経つのはあっという間やね」と振り返りながら、一文字、一文字思いを込めて書かれていました。良い年でありますように・・・



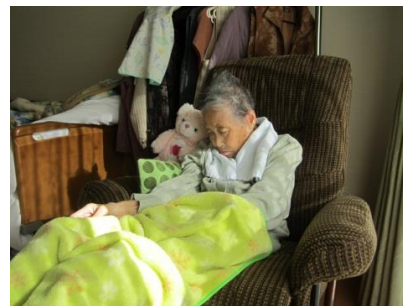
「97歳に!!!」

この日はご入居者の97歳の誕生日!! 手作りのお赤飯にケーキに・・・先日は一足早く、入居前によくお参りに行っていたというお寺にも出かけました。



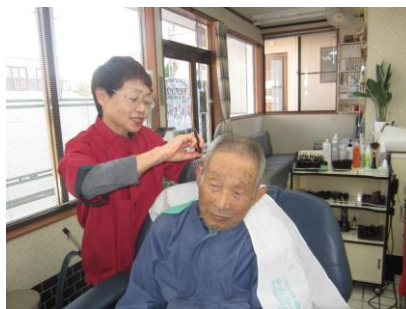
「洗い物ようけやな〜」

ある日の昼食後、一緒に洗い物をしてくれたご入居者。次から次へ運ばれてくる食器に途中で「や〜めた」とはならず頑張ってくれました。



「夢のなかへ・・・」

娘さんに買ってもらったソファに座りテレビを見ながらゆっくりとしたひと時を・・・陽当たりもよく、いつの間にか夢のなかへ・・・♪



「いつもので!!!」

「そろそろ行かあかん」と、顔なじみの床屋さんへ。ご入居者をよく知る元職員。お互い元気な様子も確認し、話も弾みます!! 「また来るわな」と次回の予約も忘れません。



「いざ!勝負!」

「ここでええんか?」「そこはおけないよ」と教えてもらいながら囲碁大会が始まりました。なかなか進まないようでしたが、何だか楽しそうなお二人さんでした。

彩りプラン ～竹谷2丁目忘年会～

年末に忘年会をしよう！！と計画中、ご入居者にリクエストを聞くと、「イモの天ぷらが食べたい！」「お寿司が食べたい！」



とすぐに返事が返ってきました。この言葉を聞いたからには、ぜひ揚げたての天ぷらとお寿司を食べさせていただきたいと計画を進めました。



当日、ご入居者と一緒にジャガイモをつぶし、ポテトサラダを作ったり、天ぷらの野菜を切ったりと準備に大忙しの中、天ぷらのいい匂いが・・・お昼が近づいてくると、たくさんのご家族が集まってきてくださ

いました。総勢40名での忘年会となりましたので、喫茶スペースはご入居者、ご家族、職員でいっぱいになりました。テーブルいっぱいには並ぶ揚げたての天ぷら、お寿司、つくね、卵焼き・・・をみなさんおなかいっぱい食べられた様子でした。お腹もふくれてきたころ、みなさんの好きなカラオケが始まりました。「次、私！〇〇歌わせて！！」とご入居者の18番を披露



してくださったり、ご家族の方にも参加していただき、忘年会は盛大なものとなりました。家族さんに囲まれての食事は、日々の暮らしの中ではなかなか見ることのできない穏やかな笑顔を見せていただくことができました。また2人の娘さんの間で寝ているご入居者まで・・・ご入居者からは「お腹もいっぱい、心もいっぱい」という嬉しいお言葉とともに大満足された笑顔もを見せていただきました。ご家族からは「また来年もよろしくね」というお言葉も頂いています。当日、ご入居者全員がご家族と一緒に忘年会に参加できたことは、日々からのご家族の協力があるからこそだと感じております。これからも引き続き、ご入居者とご家族とのつながりを意識して取り組んでいきたいと思っております。年末のお忙しい中お越しいただき、本当にありがとうございました。



は「また来年もよろしくね」というお言葉も頂いています。当日、ご入居者全員がご家族と一緒に忘年会に参加できたことは、日々からのご家族の協力があるからこそだと感じております。これからも引き続き、ご入居者とご家族とのつながりを意識して取り組んでいきたいと思っております。年末のお忙しい中お越しいただき、本当にありがとうございました。

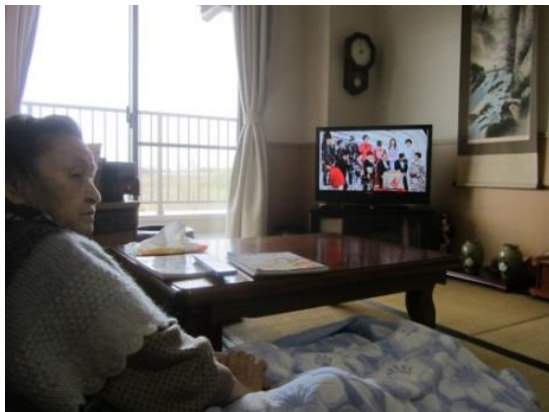


「お邪魔しまーす」

各丁目の玄関入ってすぐにある「憩いの場」。リビングでもなく、ご自分の居室でもなく、おひとりの時間をゆっくりと過ごせるようにと各丁目工夫しています。金魚をながめながら・・・昔からなじみのある畳に座りながら・・・日々、どのような空間が入居者さんにとって過ごしやすいのかを考えながら取り組んでいます。



ご家族でゆっくりと過ごす空間に・・・

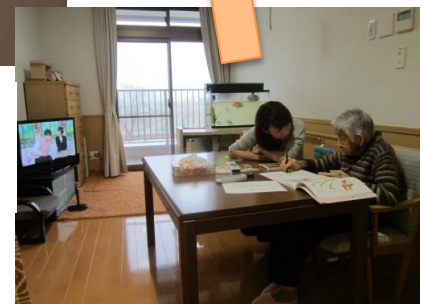


畳に座りながら歌を口ずさんだり・・・



外を眺めながらジュースを飲んだり・・・

水槽の裏にはこんなスペースが・・・



おひとりでゆっくりとご飯を食べたり、ぬり絵をしたり・・・





奥山 広喜様

奥山様は笑顔が素敵な少しお茶目なナイスガイ。趣味は囲碁。掃除、洗濯なんでも手伝ってくれる3丁目の働きもの。若い時はスポーツ万能、お酒が好きで今でも毎日の晩酌がお楽しみ。新聞を読みコーヒーを飲むのが毎日の日課。暖かい日には花に水をあげてくれたりしてくれます。家族様からの一言。スタッフの方にはとても親切にしています。家にいる時よりも落ち着いて過ごしているとおっしゃって下さいました。

坪井 鈿子様

坪井様は少し寂しがり屋さんの笑顔が可愛い女性。

若い時は料理が得意で得意な料理はおでん!!! 静岡のご出身で作り方も静岡仕込み。食事を作るとよく味見をして頂いたり一緒に洗濯物の片づけを手伝ってくださいます。



繋がりを大切に

くぬぎの木では、入居後もご家族やご友人などご入居者が今まで関わってきた方との繋がりを継続できるように、以前と変わらず、いつでもご入居者に会いに来て頂けるような雰囲気作りを心掛け、気兼ねなく過ごせるように努めています。

また、遠くに離れて暮らしてみえるご家族や今までのように会えることが少なくなってしまったご友人などには、ポストカードを送り、くぬぎの木での暮らしの様子を伝え、繋がりが途絶えてしまわないようにしています。人と繋がっているという実感があるこそ、ご入居者が安心して暮らして頂けるのではないのでしょうか。



中学生職場体験

1月21日~23日の3日間、大池中学校の生徒さんが職場体験に来てくれました。初日は、緊張しているようでご入居者と会話をするのもドキドキといった様子が見られましたが、そこは人生の大先輩のご入居者が上手に盛り上げて下さり緊張もほぐれていったようでした。

食事前、テーブルを拭いてくれていた生徒さんが、「このテーブルだけ低いよ!!」と、一言。よく気づいてくれたと思い、リビングをよ〜く眺めてもらおうと「あっ!!イスも高さが違う」と発見してくれました。ご入居者一人ひとりの体型が違うようにテーブルやイスもその方に合ったものを使っていることを伝えると驚いた様子で、ユニット内を見回していました。短い期間でしたが、生徒さんが来てくれることを楽しみにされていたご入居者の表情は普段とは違い、とても良いひと時となりました。



お世話になった皆様

(H26年10月~H27年2月)

コーラス	マリアの丘様
ピアノ演奏	井上 裕美様
POLA化粧品	代表 浜條 美和様
清掃・除草	県地区長寿会様
歌サークル	榎木 輝幸様

大募集

囲碁や書道、カラオケなど、趣味をお持ちの方。ご入居者と楽しみませんか? サークルの講師、お手伝いをしていただける方を募集しています。

施設長のつぶやき ~第4回~

「勉強してます!」

毎月1回、各ユニットのミーティングを開いています。そこでは、ご入居者の支援についての申し合わせの他、事故予防や感染症予防についての話し合い、ユニットや施設全体の予定や課題の共有を行っています。今年度は、介護の先生をこの日に招いてミニ勉強会を開いています。より身近なところで相談にのってもらうことで、確実に職員の意識が高まっているようです。ご入居者にとって、職員は特別な存在ではなく、ご入居者の暮らしに自然に添うことができる馴染みの人になる・・・その前提には、暮らしの場で活かせる介護の「専門性」をしっかりと身につけていることが重要です。毎日が勉強です! (石)

